

令和三年度 奈良県知事賞

私は幸せ者だ。

田原本町立田原本中学校 三年 玉垣 真咲

昨年、税の作文を書いたときに、私は「税金は未来への募金箱であり、未来を生きる、私、家族、友達、すれちがっただけの人、会ったこともない人、すべての人へのエールなのだ。」と考えました。

そして、「私達の行っている税金を納める、税金を使うというこの優しくて暖かい行為はいつから始まったのか。」と気になり始めました。

“税”として確立したのは大宝律令によって「租・調・庸」を納めるように定められた飛鳥時代ですが、邪馬台国では種もみや絹織物などが貢ぎ物として納められていた、と魏志倭人伝に記してあったり、もっとさかのぼって原始時代にも神に食料などを納め、みんなに分ける、という税に近いものが行われていたといわれています。

昔は、税は権力のある人への忠誠を誓ったりするためのものだったり、その権力によって奪い取られていたものだったのだなと知り、それと同時に、今私の暮らす社会の税金とはどれだけ公平なのだろうか、と感銘を受けました。正直に言うと、消費税がなくなったら百円安いのに、と思うことも多くあります。でも、考えてみると、そのお金はすべて自分に返ってきている気がします。いや、それ以上のものを与えてもらえていると思います。しんどくなったときに躊躇しないで救急車が呼べて、病気になったら病院に行ってみてもらったり、お薬を出したりしてもらえる。道を整えたり、危ない所には標識をつけたりしてもらえる。そして私達は教科書を何十冊もいただいて、勉強できる。あらためてすごい社会だな、すごい国だな、そして優しい人達がたくさんいるのだな、と感じました。

私は、私に当たり前のように中学校に通い、笑ったり、泣いたり、怒ったりさせてくれている方々、私の住む国、暮らす社会に、恩返しができるか不安です。でもちゃんとお礼を言えるような人になりたいです。私はまだ中学生なので、どちらかというと税を納めるよりも、いただくことの方が多いです。だからこそ、税金を納めてくれた人がいる、ということ、そのぬくもりを大切に、「ありがとう。」と思いながら使っていきたいです。たくさん学んで、いろいろなことを吸収したいです。そしていつかは、そっと応援するように税金を納められるような、優しい人になれるように努めようと思います。